



今月新しく入りました。

●一般の本

いじめ問題をどう克服するか (作=尾木直樹)
とっぴんぱらりの風太郎 (作=万城目学)
日輪にあらず 軍師黒田官兵衛 (作=上田秀人)
ニッチを探して (作=島田雅彦)
だから荒野 (作=桐野夏生)
君のいた日々 (作=藤野千夜)

●子どもの本

ちくわのわーさん (作=岡田よしとか)
きょうのシロクマ (作=あべ弘士)
ピムとポム ねこのえんそうかい (作=バウハウス)
しろうさぎとりんごの木 (作=石井睦美)
ぼんぼこ しっぽんた (作=すまいるママ)
笑顔の花が咲く (作=トレーシー)

中でもこの本が **オススメ** です。

ヒカルの卵 作=森沢明夫



限界集落と言われるほど田舎の養鶏場で、二郎は革命を起こそうと思っていた。もっとたくさんの人に「たまご」のおいしさを分かかってほしい! その一途な気持ちだけで「卵かけごはん専門店」を開くことを決意したのだ。「え? 家で食べられるものを?」と周囲は大反対するも、二郎の心は動かない。そしてついにオープン! 果たしてそのお店の運命は?

だっこ だっこ 作=つちだ よしはる



くまのこが歌を歌いながら、ひとりで森の中を歩いています。木の上から歌声が聞こえました。ふくろうのお母さんが赤ちゃんをだっこしています。「いいなあ、だっこだっこ」地面の下から歌声が聞こえました。もぐらのお母さんが赤ちゃんをだっこしています。急にくまのこはお母さんに会いたくなって…。「だっこ」がいっぱいの絵本です。



かあちゃん 作=重松 清

2月の寒さに負けず、美しく香り高く咲く梅の花を見ると、私は凛とした強さの母の姿を思い出します。このかあちゃんも本当に強い心の持ち主です。33歳の若さで主人を交通事故で亡くし、その上同乗されていた方まで亡くなられたという不幸が一瞬にして家族を襲います。それからのかあちゃん、亡くなられた方への償いで笑うことを忘れた日々でした。このことを忘れずにいる勇氣、背負い続ける勇氣が、当時いじめ問題で不登校になっていた中学生の啓太君の心を動かします。いじめについて深く追求したこの物語に、母の強さと愛を感じる一冊です。



おかあちゃんがつくったる 作=長谷川義史

大好きなおとうちゃんも、ぼくとおかあちゃん、おねえちゃん、元気にやっています。いつもおかあちゃん、ぼくに手作りのものを色々作ってくれますが、学校の友だちにはよく笑われます。さて、父親参観日におかあちゃんがつくったものは、長谷川義史さんの温かい絵と共に、明るい元氣なおかあちゃん、家族の話で、あつたかく、ちよっぴりせつなくて、でも笑えて心がじんときまします。こんな母ちゃんになりたいな!!

春の桜、夏の海、秋の紅葉、冬の雪…。美しい四季が体感できるのは日本人の特権。そんな私たちがだからこそ、読みたくなる「旬の本だな」シリーズ「旬の本だな」。2月は「母」をテーマに2冊の本をご紹介します。紹介者は藤井愛子さん(鞍手町文庫連絡会)です。



石井放射線科長の

調子はいかが？

くらで病院 ☎42局1231番

くらで病院スタッフ
からの健康
アドバイスです



先日、交通事故にあった際にMRI検査とCT検査を受けました。MRI検査とCT検査の違いについて教えて下さい。(男性・32歳)

【MRI装置とCT装置】

MRI装置とCT装置は、どちらの装置も中央に円形の穴が開いていて形がよく似ており、MRI検査もCT検査もこの穴の中に身体を入れて検査をします。このふたつの装置の大きな違いは、MRI装置は「磁石の力」を、CT装置は「X線という放射線」を利用する点です。

【装置の仕組み】

MRI装置は日本語に直すと「磁気共鳴画像診断装置」となります。人間の身体は大半が水でできており、人体を強い磁石の中に入れ、弱い電波をかけると身体の中の水素原子から信号が出てきます。この信号は、臓器や腫瘍、脳の正常組織や梗塞を起こしている場所などによってそれぞれ異なります。年齢によって水分比率は変わりますが、この水分子中の水素原子の量と分布している状態を画像に換えて、診断に役立てています。

【装置の違い】

CT装置は日本語に直すと「コンピュータ断層診断装置」となります。X線を人体の周りから回転しながら照射します。人体を透過するX線の量、空気の量などにより差があり、その人体を透過したX線量の差をコンピュータで画像解析することにより、身体を輪切りにした画像を得て診断を行います。

このように、よく似た装置で同じような輪切りの画像を作り出しますが、それぞれに全く違うものなのです。

【装置の違い】

では、どんな場合に、どちらの装置の検査を受けた方が良いのでしょうか。
脳の検査と骨折の検査の例を挙げてみましょう。
脳の検査においては、脳梗塞や脳腫瘍では「MRI検査」が、脳出血では「CT検査」が優れていると一般的に言われており、骨折の状態を見た

い場合には「CT検査」が非常に有用です。しかし、外傷後のレントゲンやCT検査でははつきりしないズレのない骨折や骨挫傷では、MRI検査だけにわかる骨内の出血や急性炎症などがあり「MRI検査」の得意分野となります。ただし、現在のCT装置もかなり進化し、細部まで骨の状態がわかるようになりました。

CT装置は、短時間に頭から足先まで検査でき、首から骨盤までを約10秒程度で撮影します。骨、肺、出血巣の内部分構造を広く範囲に描出することができ、救急救命や緊急検査に適していますが、X線を使用しているため「放射線被ばく」があります。また、造影剤という薬を使用しないと病気や血管などがよく見えな

い場合があります。
MRI装置では、CT装置では描出しにくい神経、血管、靭帯、軟骨などを画像として捉えることができ、ただ放射



△ MRI 装置



△ CT 装置

線被ばくはありませんが、1回の検査時間が長く(30分〜1時間程度)、検査中の機械の音が非常に大きいのが特徴です。また、体内にペースメーカーなどの生体装置や金属が入っている場合などは、検査できないこともあります。
このように両検査とも長所、短所を持ち合わせていますので、検査の目的や症状によって、どちらかの検査を選択したり、お互いを補いあつて、両方の検査を行います。見たい目はよく似た装置ですが、その診断目的にあった装置を選択し検査を行うことが、疾病の早期発見・早期治療にとっても大切なことです。

MRI装置とCT装置は、どちらの装置も中央に円形の穴が開いていて形がよく似ており、MRI検査もCT検査もこの穴の中に身体を入れて検査をします。大きな違いは、MRIは「磁石の力」をCTは「X線という放射線」を利用する点です。



【アドバイザー】

石井英之さん・いしいひでゆき・昭和60年3月国際医学総合技術学院診療放射線技師科を卒業後、昭和60年4月から三重大学医学部附属病院勤務、昭和61年8月より鞍手町立病院に勤務。現在は、くらで病院放射線科長。